

(福岡県) 「内政部長事務引継書」 (二)

秀村, 選三
九州大学 : 名誉教授

<https://doi.org/10.15017/2244498>

出版情報 : エネルギー史研究 : 石炭を中心として. 34, pp.53-79, 2019-03-15. 九州大学附属図書館付
設記録資料館産業経済資料部門
バージョン :
権利関係 :



【資料紹介】

（福岡県）「内政部長事務引継書」（二）

秀 村 選 三

解題（二）

今回（二）は内政部の兵事課の記事のみを記載するが、兵事課のみで全体の約三分の一の枚数をしめている。前回（一）は神祇・庶務・調査・振興・教学の各課の記事を載せているが、今回は兵事課のみである。この後には厚生・民生・衛生・会計・営繕各課の記事になっている。

いかにも太平洋戦争最末期の様相を示している。軍人遺族・家族等に対する軍事援護、傷痍軍人の職業教育、軍人援護、軍人遺族・家族遺族の教化（ことに風紀問題は「国家的重大事項」としている）、さらに海軍協会、軍人援護会、徴兵、係各団体の記事等を載せている。

「内政部長事務引継書」はいつから始まったのであろうか、県の調査によっても明らかでなく、昭和十三（一九三八）年の福岡県庁行政機構一覧には当時の内務部には庶務・地方・会計・調査・外務の各課があるが兵事課はない。戦争の拡大とともに設置されたのであろう。さらに昭和二十一年の記録には兵事課は見えない由である。

この史料の内容は戦没者の遺族・家族の援護・強化、傷痍軍人の職業教育、軍事扶養遺族・家族（とくに女性）の風紀問題、陸海軍への少年、朝鮮人・台湾人の志願兵募集、海軍協会福岡支部、福岡県授産協会等々多岐に亘る記事が記録されている。用紙はおおむね福岡県の一枚（二頁）朱線の罫紙であるが、一部主に海軍関係の記事には海軍協会福岡県支部の罫紙「青色」が用いられている。戦時中、海軍の施設は県庁と川をはさんで東側にあった（現在の公会堂）。

多くはタイプ印刷であるが、一部ガリ版印刷のところもある。

表記について

・旧漢字については、常用漢字に変えることができるものは常用漢字にしたが、常用漢字がないものはそのまま表記した。（例 互り）
（貨幣単位についても旧漢字のまま表記）

兵事課

(第1枚目)

目次

兵事課

- 一、時局事務ニ関する件
- 二、戦時非常災害ニ依ル軍人遺族家族等ニ対スル軍事援護対策ニ感スル件
- 三、福岡県傷痍軍人職業教育所ニ感スル件
- 四、傷痍軍人奉公財団折尾作業所ニ関スル件
- 五、軍人援護ニ感スル件
 - 1 軍事扶助実施ニ感スル件
 - 2 法外扶助ニ関スル件
 - 3 軍人遺族家族教化指導ニ関スル件
- 六、徴兵徴募ニ関スル件
- 七、各種団体ニ関スル件
 - 1 福岡県国防会
 - 2 海軍協会福岡県支部
 - 3 海洋道場建設委員会福岡支部
 - 4 恩賜財団軍事援護会福岡県支部
 - 5 福岡県授産協会
 - 6 大日本傷痍軍人会福岡県支部

(第2枚目)

一、時局事務ニ関スル件

(一) 出動並ニ帰還軍隊ニ対スル処置

1、出動軍隊酒肴料

久留米師団管下ニ於テ編成シタル軍隊出動ニ際シテハ佐賀、長崎両県共同ニテ一人金一円宛酒肴料ヲ贈呈シ居レリ。昭和十九年度ニ於ケル本県ヨリノ贈呈額一万九百七十円ナリ

2、軍隊歓迎

博多駅通過及出発ノ際ハ駅頭ニ門司港又ハ博多港出帆又ハ帰還上陸ノ際ハ埠頭ニ知事又ハ代理者歓迎ヲ為シ居レリ

3、送別又ハ帰還

部隊長以上ノ出動帰還ノ際ハ清酒ヲ贈呈シ居レリ

(二) 戦傷病者ニ対スル処置

1、久留米師団管下並ニ佐世保鎮守府管下ノ各陸海軍病院ヲ知事又ハ県会議員慰問シ見舞金ヲ贈呈シ居レリ

(三) 戦病死軍人遺族ニ対スル処置

1、市町村ヨリ戦病死者報告ニ接シタルトキハ其ノ遺族ニ対シ弔電ヲ発シ居レリ

2、知事代理トシテ各地方事務所長(市部ハ警察署長)遺族ヲ弔問シ慰問品(有田焼香炉又ハ柎立)ヲ贈り、特ニ軍事扶助ヲ受クル遺族ニ対シテハ見舞金百円ヲ贈呈シ居レリ

3、部隊長以上ノ英霊県内ニ帰着通過ノ際ハ知事又ハ代理者出迎シ花輪一対ヲ敬供シ居レリ

4、陸海軍部隊合同告別式ニハ知事又ハ代理者参列シ祭詞ヲ朗読、供物料ヲ敬供シ居レリ

5、市葬ノ場合ハ知事代理トシテ課長又ハ高等官、町村葬ノ場合ハ地方事務所長又ハ代理者参列祭詞並ニ供物料ヲ敬供シ居レリ

(四) 英霊御帰還ニ対スル処置

(3枚目)

- 五、軍人援護ニ関スル件
- 1、軍事扶助実施状況ニ関スル件
- 2、法外扶助ニ関スル件
- 3、軍人遺族、家族教化指導ニ関スル件

(4枚目)

- 二、戦時非常災害ニ依ル軍人遺族家族等ニ対スル軍事援護対策ニ関スル件

昭和十九年六月十六日北九州空襲ニ依リ災害ヲ蒙リタル軍人遺族家族傷痍軍人等ニ対シ不取敢十八日県係官ヲシテ被害各市ニ左記標準ニ依ル見舞金ヲ持参セシメタリ、其後八幡市ニ新ニ県ノ北九州臨時防空対策本部ヲ設置セシメタルヲ以テ直チニ軍事援護事務係官ヲ派遣、六月三十日迄常置セシメ右見舞金ノ贈呈及各種調査並ニ軍事援護事務処理ニ当ラシメタリ、其間北九州五市ノ援護主管課長を対策本部ニ召集シ軍事援護対策ニ付協議シ被害者ニ対スル軍事扶助法並ニ其他援護事業ノ強化徹底ヲ図ラシメタリ

其後北九州臨時防空対策本部ノ廢止ニ伴ヒ兵事課内ニ戦時非常災害軍事

援護班五班ヲ常置シ戦時非常災害アリタル場合ハ直チニ夫々班単位ヲ以テ現地ニ急行シ災害状況調査各種援護ノ措置及慰問慰藉ニ当リツツアリ

現在迄ノ見舞金贈呈状況左ノ如シ

(以下に次表を挿入)

区別	死亡人	重傷人	軽傷人	住家		援護会		同上見舞金		
				全壊戸	半壊戸	本部	支部	本部	支部	軍事保護院
門司市	一一	一	一	七	一五	一、〇二五	一、〇二五	一、〇二五	一、一〇〇	三、一六〇
小倉市	五	二	一	一五	三三	一、二四五	一、二四五	一、二四五	一、四二〇	三、九一〇
戸畑市	七			四	一九	七五五	七五五	七五五	八五〇	二、三六〇
八幡市	六七	一九	一一	七〇	六九	六、九六〇	六、九六〇	六、九六〇	七、六二〇	二一、五四〇
若松市	二	一	一	一	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一八〇	五二〇
大牟田市	五		二	八	四	五八〇	五八〇	五八〇	六一〇	一、六七〇
計	九七	二三	一六	一〇五	一三九	一〇、七三五	一〇、七三五	一〇、七三五	一一、七九〇	三三、二六〇

(5枚目)

災害区分	軍人援護会		計	軍事保護院		合計
	本部	支部		総裁	計	
死亡行衛不明	五〇円	五〇円	一〇〇円	五〇円	一五〇円	
重傷者	二五	二五	五〇	三〇	八〇	
軽傷者	一五	一五	三〇	二〇	五〇	
全焼全壊	三〇	三〇	六〇	三〇	九〇	
半焼半壊	一五	一五	三〇	二〇	五〇	

(6枚目)

三、福岡県傷痍軍人職業教育所ニ関スル件

一、位置

昭和十九年五月迄ハ粕屋郡大川村長者原ニ在リシカ其後新築移
転シ現在福岡市西新町百道ニ在リ

一、移転ノ理由

従来ノ位置ハ仮村ニシテ再教育実施上支障少カラス、入所者漸減
ノ徴アルニ鑑ミ此ヲ市内ニ移転シ、更ニソノ教育内容ニ改善ヲ加
ヘ所期ノ目的達成スルタメ

一、敷地坪数 一六二九坪

一、建物坪数 三二六坪五八

一、建築費 九九、三九八円

一、教育科目

機械製図科事務課及旋盤科

旋盤科ハ移転前ハ工業学校又ハ民間工場ニ委託シ居タルモ、此カ
振作ヲ図ルタメ移転ヲ機トシ所内ニ機械設備ヲナス事トセリ

一、教育生定員及現在数

定員 現在数

事務課 一〇名 六名

製図科 一〇名 三名

旋盤科 一五名 〇名

委託教育生

接二 ラチヲ 一 農会技術員 一 畜産技術員 一

レントゲン 一 自動車運転 一

一、職員

定員 現在数

所長 一名 一名

主事補 一名 内申中

事務嘱託 一名 欠員

(7枚目)

教師嘱託 二名 二名

臨時教師嘱託 四名 四名

雇 夫 一名 一名

司 夫 一名 一名

小 使 一名 一名

一、建設ヲ要スル者(モノカ)

堀、電話 寄宿舎便所、寄宿舎倉庫

一、修理ヲ要スルモノ 水道

一、懸案中ノモノ 工作機械ノ設置

機械ノ据付ハ市内塚本商會社ト契約シ昨年度中ニ完了ノ予定ナ
リシカ機械入手困難ナル事情相次テ発生シ、未タ実現ニ至ラス、
目下嚴重督促中ナレハ近ク此カ設置ヲ完了シ教育生ヲ收容シテ時
局下軍需生産ニ寄与セシメントス

(8枚目)

四、傷痍軍人奉公財団折尾作業所ニ関スル件

一、設置目的 胸部疾患傷痍軍人ヲ收容シ作業時間短縮、定期的検診

等ノ健康管理ヲ行ヒツツ作業セシメ且此ノ一定ノ収入

ヲ確保セシメ胸部疾患傷痍軍人ニ付テ最モ困難ナル除役直後ノ職業保護ヲナスヲ目的トス

一、位 置 八幡市折尾町浅川通

一、敷地坪数 六六九坪

一、建物坪数 九〇坪

一、建設費 機械設備 三万円

土地建物 四万円

其 他 五千元

計 七万五千元

一、着 工 昭和十七年十月一日

一、完 成 昭和十九年四月二十五日

一、作業種類 旋盤ヲ使用シ砲彈部品又ハ機械部品ノ加工作業

一、発注先 小倉陸軍造兵廠

一、経営主体 軍事保護院内傷痍軍人奉公財団

理事長軍事保護院副總裁

一、本県ノ協力状況

建設ニ当リ土地建物ハ北九州五市及地元ヨリ四万円ノ寄付ヲ得テ此ヲ完成シ其後ノ経営ニ付テモ内政部長所長トシテ此カ指導監督

ニ当ル

一、定員及作業員数

定 員 二〇名

入所者数 一〇名

退所者数 二名

現在員数 八名

外ニ技術主任一名アリ

(9枚目)

一、昭和十九年度経営予算 一、二、八六三元

一、事業収入 約一、五〇〇円

一、保管金

土地建物建設寄付金残金 七〇二円六八銭

(10枚目)

五、軍人援護ニ関スル件

1、軍事扶助実施状況ニ関スル件

2、法外扶助ニ関スル件

3、軍人遺族、家族教化指導ニ関スル件

(11枚目)

1、軍事扶助実施状況ニ関スル件

軍事扶助法ニ依ル扶助施行状況ハ昭和十九年度ノ昭和二十年三月一日現在迄ニ於テハ扶助戸数一四、二五五戸扶助人員五一、二一四人扶助金額三、四五二、七八四円ヲ支出セリ、而シテ三月一日現在扶助中ノモノハ一一、九九七戸四三、八七三人ナリ、今之カ実施状況ヲ表示スレハ左ノ通りナリ

扶助種別	戸数	人員	金額
生活扶助	一四、〇三〇	五〇、八六七	三、三三三、七三六
医療	一九七	一、三三三	一〇四、三三七
助産	(一、四一四)	(一、六〇六)	四、五四〇
生業扶助	(二七六)	(一一一)	一、一一一
	(八)	一六	

災害扶助	(八一)	九七	七八〇
埋葬	(三二〇)	八二七九	
計	(一四、二五五) (一、九〇八)	(三七〇)	三、四五二、七八四

本県軍事扶助事業ノ特異性トシテハ出征応召軍人数ニ比シ要扶助戸数ノ比率ハ他県ニ比シ低キ現状ニアルモノト認メラルルカ右ハ県下ニ於ケル大小多数ノ工場鉱山等ヨリ応召セル軍人世帯ニ対シ夫々事業主ハ給料ノ全額、又ハ其ノ幾割カラ支給シツツアル結果ナリト認メラル、若シ之等事業主ノ犠牲的援護ナルトキハ恐ラク扶助率ハ現在ニ倍加スルモノト思料セラル

2、法外扶助(軍人援護事業助成費ニ依ル援護)ニ関スル件

軍事扶助法ニ該当セサル内縁ノ妻 姪等又ハ方ノ適用ヲ受クル程度ニ至ラサルモ尚援護ノ要アル者ニ対シテハ昭和二十年度ニ於テハ四八一、一五〇円ヲ計上シ之カ財源トシテハ国庫補助三分ノ二、県費補助三分ノ一ヲ以テシ、県並軍人援護会県支部ニ於テ夫々事業ヲ分担実施シ、其ノ主ナル事業トシテハ生活援護(空白)療、生業援護及慰問慰藉等ヲ実施セリ、殊ニ本年度ニ於テハ生業援護ノ授産施設ノ拡充教化ヲ図リ、以テ軍人家族ノ独立自(ラ脱カ)ノ方途ヲ講スルト共ニ生

(12枚目)

産拡充、戦力強化ノ一助タラシメントス
 之カ施設(設脱カ)置予定数ノ県下ニ互リ約五十ヶ所、総経費約二十五万円ヲ要シ、之ニ対シ其ノ三分ノ二ヲ助成スル見込ナリ
 3、軍人遺族家族ノ強化指導ニ関スル件

大東亜戦局ノ進展ニ伴ヒ出征応召軍人ノ家族及戦死病没軍人ノ遺族並

傷痍軍人ノ数ハ著シク増加シ、之等軍人遺族家族ノ援護ハ現下喫緊ノ重要事ナルカ、就中遺家族中ニ於ケル風紀問題ニ付テハ国家的重大事項ニ属ス、本件ニ関シテハ県ニ於テモ特ニ重視シ、之カ表面化シタルモノノ措置ハ勿論、未然防止ニ県中央軍事援護相談所及婦人指導囑託ヲ初メ各地方事務所、各市町村銃後奉公会、並ニ相談員ヲ督励シテ積極的ニ努力中ナルモ容易ノ業ニアラスシテ、其ノ数ハ漸次増加ノ傾向アルハ洵ニ遺憾トスルトコロナリ

之カ対策ニ付、種々研究ノ結果、遺家族ヲシテ出来得ル限り引込思案ヲナサシメス、団体的ニ集合セシメ、其ノ精神の指導ハ勿論、物資的方面ニ於テモ指導啓発セシムルノ要緊切ナルモノアルニ鑑ミ、県ニ於テハ^{恩賜}財團軍人援護会福岡県支部ト提携シ授産所ヲ奨励シ来リタルカ、其ノ成績見ルヘキモノアルヲ以テ、今後更ニ地方ノ実情ニ即シタル授産所ヲ増設スルト共ニ厚生課所管ノ託児所ノ増設ト相俟ツテ遺家族、特ニ婦人ヲシテ生産部面ニ進出セシメ、精神の教養ハ勿論、戦力増強ニ挺身セシムルハ眞ニ焦眉ノ急務ニ属セリ

授産施設一覽表 (昭和二十年四月二十日現在)

種別	区分	個所数	遺家族従業員数
縫製事業		二二	九七〇
鼻緒事業		二	五六〇
竹工事業		二	五五
薬加工事業		七	一〇〇
木工事業		一	三五
鼻緒芯加工事業		一	二〇〇
計		三四	一、九二〇

3. 海軍特別幹部練習生

甲種飛行予科練習生ノ徵募検査ハ本年一月下旬実施ノモノヲ以テ一時停止ノコトトナリ、本制度創始セラレ、前期検査ハ四月十日開始、二十日ヲ以テ終了セリ、海軍ヨリ本県ニ対スル割当一、六〇〇名、志願者数二、三五〇名、合格者約一、一八〇名、詳細ニ付テハ目下調査中ナリ

(16枚目)

1、福岡県国防会

一、目的

国民国防ノ本義ヲ普及徹底セシメ、郷土防衛ノ研究施設ヲ為シ、国防ノ充實ニ寄与スル事

二、沿革

軍隊ノ勸奨ニ依リ昭和八年三月二十日創立、同年四月十五日国防大会ヲ開催シ、梨本元帥宮殿下ノ台臨ヲ辱フス

三、主要事業

1、国防思想ノ普及徹底ニ関スル事項

2、郷土防衛ノ研究並実施

3、兵器ノ献納

4、出動軍隊ニ対スル慰問、慰籍

5、戦時事変ニ於ケル陣没軍人軍属ニ対スル弔慰金等

四、主ナル幹部

会長 福岡県知事

副会長 内政部長、久留米師団兵務部長、福岡県会議長

本部委員

県内各部長、久留米師団參謀長及參謀二名、下関要塞參謀、聯隊区司令官、福岡・久留米・小倉各市長、県町村長会正副会長

幹事

県兵事課長(常任) 聯隊区司令部佐官一名
市長朱印(付出) 在郷將校等十名並各郡町村長二十五名

地方委員長

各町村長 二百七十名

五、会員

全県民ヲ普通會員トシ、賛助會員以上五千九百九十七名

六、資金並管理状況

金四十二万七千二百六十五円七十八銭 (昭和二十年四月二十一日現在)

内 訳

(17枚目)

金四十万六千百円

有価証券

金一千九百二十一円九十七銭

当座預金

金一万一千四百四十三円八十二銭

特別当座預金

金七千八百円三十九銭

振替貯金

右之通相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

福岡県国防会副会長

栗原美能留

ヲ仰ギ、支部大会ヲ挙行スルニ当リ、会員四万五千数百人ニ達シ、
有功章・功労章ノ御親授ヲ辱フシ、優渥ナル令旨ヲ賜フ、昭和十
七年十一月海軍大臣ヨリ表彰セラル

昭和十八年六月 総裁宮殿下ヨリ優良章ヲ親授セラル

三、主要事業

1. 海軍思想普及
2. 海軍志願兵奨励
3. 戦病死者及戦傷病者ノ弔慰問
4. 皇軍ニ対スル慰問及激励
5. 海軍ニ対スル奉仕援助
6. 各種団体ニ対スル協力援助
7. 会勢ノ拡張

四、主要幹部

志部長 福岡県知事
副支部長 福岡県内政部長
幹事長 福岡県兵事課長

(20枚目)

幹事 海軍在郷将校四名 地方事務所長
顧問 佐世保鎮守府参謀長

第四海軍燃料廠長
福岡県各部長
海軍造船中将二名

評議員 各市長各郡町村長会長等三十八名
五、会員現在数 (昭和二十年四月二十一日現在)

有功会員 五五〇人

功労会員 七二八人

維持会員 六、四九〇人

正会員 一二、二三六人

通常会員 八六、七七一名

合 計 一〇六、八七五名

六、資産並保管状況 (昭和二十年四月二十一日現在)

一般会計

1. 有価証券 四四、一一五、九九

2. 振替貯金 四七、二九三、一六

3. 特別当座預金 一〇一、七〇三、八八

4. 定期預金

合 計 一九三、一一三、〇三

基本財産 別表ノ通り

右ノ通相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

海軍協会福岡県支部

副支部長 栗原美能留

昭和十九年度 昭和二十年四月二十一日現在海軍協會福岡県支部現計表

(21枚目)

歳入之部									
款 項 目	予算高	前月迄取入高	本月取入高	収入累計	予算残高	備考			
第一款 会議拠金	688,000	680,308	75	12,610	23	492,918	98	195,081	02
第一項 一般會員拠金	518,000	397,869	95	12,610	23	410,480	18	107,519	82
第一目 一般會員拠金	518,000								
第二項 特別會員拠金	170,000	82,438	80			82,438	80	87,561	20
第一目 有功及功勞會員拠金	170,000								
第二款 資産取入	15,000	12,982	58			12,982	58	2,017	42
第一項 資産取入	15,000								
第一目 資産取入	15,000								
第三款 雑取入	50	1,966	81			1,966	81	△ 1,916	81
第一項 雑取入	50								
第一目 雑取入	50								
第四款 前年度繰越金	75,000	84,753				84,753	65	△ 9,753	65
第一項 前年度繰越金	75,000								
第一目 前年度繰越金	75,000								
合 計	778,050	580,011	79	12,610	23	592,622	02	185,427	98

振替貯金及特別当座預金高

歳 入 高	592,622	02	預 入 先	金 額
歳 出 高	412,900	76	振替貯金基金	5 -
歳入歳出差引残高	179,721	26	振替貯金	47,288 16
昭和二十年度へ繰越高	50,000	-	県庁信用組合	27,465 09
差 引 残 高	129,721	26	住友銀行	26,358 99
二十年度分残高	63,391	77	野村銀行	47,879 80
合 計	193,113	03	債 権	44,115 99
(十九年度、二十年度残高合計)			合 計	193,113 03

(22枚目)

基本財産表(定期及信託)

昭和二十年四月二十一日現在

合 計	安田信託	住友信託福岡支店	十七銀行東郷支店	十七銀行	三和銀行	三菱銀行	安田銀行	帝國銀行	野村銀行	住友銀行福岡支店	保管先	金 額	備 考
五、五、〇〇〇	四、〇、〇〇〇	四、〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	金	〇〇〇	
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	円	〇	
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇	

(以下空白)

歳 出 之 部		予 算 高	前月迄支出高	本月分支出高	支出高累計	予算高残高	備考
第一款 事務所費		42,000	34,114.43	1,895.34	36,009.77	5,990.23	
第一項 俸給及諸經費		35,550	30,263.44	1,764.94	32,028.38	3,521.62	
第一目 俸 給		9,120	8,280.30		8,280.30	839.70	
第二目 諸 手 当		6,024	3,186.29		3,186.29	2,837.71	
第三目 諸 給		3,060	2,132.81		2,132.81	927.19	
第四目 旅 費		2,500	1,670.96		1,670.96	829.04	
第五目 賞 与		13,946	14,256.00	1,743.00	15,999.00	△ 2,053.00	
第六目 備 人 給		900	737.08	21.94	759.02	140.98	
第二項 需 用 費		6,550	3,850.99	130.40	3,981.39	2,568.61	
第一目 備 品 費		500				500.00	
第二目 消 耗 品 費		700	243.67		243.67	456.33	
第三目 図書及印刷費		3,000	2,479.66	34.00	2,513.66	486.34	
第四目 通信運搬費		2,000	1,087.16	87.40	1,174.56	825.44	
第五目 諸損料其他		350	40.50	9.00	49.50	300.50	
第二款 会 議 費		2,000	419.65		419.65	1,580.35	
第一項 会 議 費		2,000					
第一目 会 議 費		2,000					
第三款 本部納付金		59,800	19,004.72	21,687.31	40,692.03	19,107.97	
第一項 本部納付金		59,800					
第一目 本部納付金		59,800					
第四款 分会交付金		140,600	108,584.63	12,729.57	121,314.20	19,285.80	
第一項 分会交付金		140,600	108,584.63	12,729.57	121,314.20	19,285.80	
第一目 交 付 金		120,570	95,503.47	11,509.07	107,012.54	13,557.46	
第二目 募 集 手 当		20,030	13,081.16	1,220.50	14,301.66	5,728.34	
第五款 会勢拡張費		12,500	11,312.71		11,312.71	1,187.29	
第一項 会勢拡張費		12,500	11,312.71		11,312.71	1,187.29	
第一目 会勢拡張費		10,500	11,112.11		11,112.11	△ 612.11	
第二目 御親授式參列費		2,000	200.00		200.00	1,800.00	
第六款 事 業 費		328,513.48	107,501.65	5,550.75	113,052.40	215,461.08	
第一項 機関雜誌頒布費		42,160		1,983.47	1,983.47	40,176.53	
第一目 機関雜誌頒布費		42,160					
第二項 海軍記念日行事費		8,300	1,200.00		1,200.00	7,100.00	
第一目 海軍記念日行事費		8,300					
第三項 海軍思想普及費		41,500	6,095.36		6,095.36	35,404.64	
第一目 普 及 費		6,500	421.74		421.74	6,078.26	
第二目 活動写真及演劇費		25,000	5,524.62		5,524.62	19,475.38	
第三目 訓練講習費		10,000	149.00		149.00	9,851.00	
第四項 海軍志願兵奨励費		31,140	34,906.49	1,359.95	36,266.44	△ 5,126.44	
第一目 海軍志願兵奨励費		31,140					
第五項 表 彰 費		4,000	1,370.00		1,370.00	2,630.00	
第一目 表 彰 費		4,000			0.00	4,000.00	
第六項 慰 問 費		10,500	11,402.67	2,127.33	13,530.00	△ 3,030.00	
第一目 皇軍慰問費		10,000	11,402.67	2,127.33	13,530.00	△ 3,530.00	
第二目 軍艦慰問費		500			0.00	500.00	
第七項 弔 慰 費		25,133.48	21,208.74	80.00	21,288.74	3,844.74	
第一目 弔 慰 費		25,133.48					
第八項		150,000	20,000.00		20,000.00	130,000.00	
第一目		150,000					
第九項 諸 費		15,780	11,418.39		11,418.39	4,361.61	
第一目 海洋少年団援助費		7,000	7,000.00		7,000.00		
第二目		3,280	3,280.00		3,280.00		
第三目 分会助成費		3,000				3,000.00	
第四目 雜 費		2,500	1,138.39		1,138.39	1,361.61	
第七款 積 立 金		190,000	90,000.00		90,000.00	100,000.00	
第一項 積 立 金		190,000					
第一目 積 立 金		190,000					
第八款 予 備 費		24,326	[21,789.48]		[21,789.48]	2,536.52	
第一項 予 備 費		24,326					
第一目 予 備 費		24,326					
歳 出 合 計		778,050	371,037.79	41,862.97	412,900.76	365,149.24	

本表ノ通相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

海軍協會福岡県支部

主事補 木下定人 (印)

全 荒木菊次 (印)

海軍協會福岡県支部 副支部長 栗原美能留殿

昭和二十年度 昭和二十年四月二十一日 現在 海軍協会福岡県支部 現計表						
歳入之部						
款 項 目	予算高	前月収入高	本月収入高	収入累計	予算残高	備考
第一款 会 員 拠 金			12,937.00	12,937.00		
第一項 一般会員拠金			11,937.00	11,937.00		
第一目 一般会員拠金						
第二項 特別会員拠金			1,000.00	1,000.00		
第一目 有功及功労会員拠金						
第二款 資産取入						
第一項 資産取入						
第一目 預金利子						
第三款 雑 取 入						
第一項 雑 取 入						
第一目 雑 取 入						
第四款 前年度繰越金			50,000.00	50,000.00		
第一項 前年度繰越金						
第一目 前年度繰越金						
交付金			2,000.00	2,000.00		
合 計			64,937.00	64,937.00		
振替貯金及特別当座預金高						
歳入高		64,937.00		預 入 先	金 額	
歳出高		1,545.23		振替貯金基金	5.00	
歳入歳出差引残高		63,391.77		振 替 貯 金	47,288.16	
昭和十九年度差引残高		129,721.26		県庁信用組合	27,465.09	
合 計		193,113.03		住 友 銀 行	26,358.99	
				野村銀行(特当)	47,879.80	
				債 券	44,115.99	
				合 計	193,113.03	

(26枚目)

合 計	安田信託 〃	住友信託福岡支店	十七銀行東郷支店	十七銀行 〃	三和銀行 〃	三菱銀行 〃	安田銀行 〃	帝國銀行 〃	野村銀行 〃	住友銀行福岡支店	保管先
五五五、〇〇〇 円	四〇、〇〇〇 円	四〇、〇〇〇 円	一五、〇〇〇 円	一〇〇、〇〇〇 円	四〇、〇〇〇 円	四〇、〇〇〇 円	四〇、〇〇〇 円	八〇、〇〇〇 円	七〇、〇〇〇 円	八〇、〇〇〇 円	金 額
											備 考

(27枚目)

基本財産(定期及信託)

(28枚目)

款 項 目	歳 出 之 部			支出高累計	予算高残高	備考
	予 算 高	前月迄支出高	本月分支出高			
第一款 事務所費			1,315.23	1,316.23		
第一項 俸給及諸經費			772.03	772.03		
第一目 俸 給			471.67	471.67		
第二目 諸 手 当			179.96	179.96		
第三目 諸 給			108.00	108.00		
第四目 旅 費						
第五目 賞 与						
第六目 備 入 給			12.40	12.40		
第二項 需 用 費			543.20	543.20		
第一目 備 品 費						
第二目 消 耗 品 費						
第三目 図書及印刷費			13.20	13.20		
第四目 通信運搬費			530.00	530.00		
第五目 諸損料其他				0.00		
第二款 会 議 費						
第一項 会 議 費						
第一目 会 議 費						
第三款 本部納付金						
第一項 本部納付金						
第一目 本部納付金						
第四款 分会交付金						
第一項 分会交付金						
第一目 交 付 金						
第二目 募集手当						
第五款 会勢拡張費						
第一項 会勢拡張費						
第一目 会勢拡張費						
第二目 御親授式参列費						
第六款 事 業 費			230.00	230.00		
第一項 機関雜誌頒布費						
第一目 機関雜誌頒布費						
第二項 海軍記念日行事費						
第一目 海軍記念日行事費						
第三項 海軍思想普及費						
第一目 普 及 費						
第二目 活動写真及演劇費						
第三目 訓練講習費						
第四項 海軍志願兵奨励費			150.00	150.00		
第一目 海軍志願兵奨励費						
第五項 表 彰 費						
第一目 表 彰 費						
第六項 慰 問 費						
第一目 皇軍慰問費						
第二目 軍艦慰問費						
第七項 弔 慰 費			50.00	50.00		
第一目 弔 慰 費						
第八項						
第一目						
第九項 諸 費						
第一目 海洋少年団援助費						
第二目						
第三目 分会助成費						
第四目 雜 費			30.00	30.00		
第七款 積 立 金						
第一項 積 立 金						
第一目 積 立 金						
第八款 予 備 費						
第一項 予 備 費						
第一目 予 備 費						
歳 出 合 計			1,545.23	1,546.23		

(29枚目・30枚目)

本表ノ通相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

海軍協会福県支部

主事補

木下定人

(朱印)(木下)

全

荒木菊治

(朱印)(荒木)

海軍協会福岡県支部

副支部長

栗原美能留 殿

(31枚目)

3、海洋道場建設委員会福岡支部

- 一、海洋道場建設委員会ノ趣旨ニ依リ県内青少年ニ対シク海洋訓練ヲ実施スルヲ為海洋道場ヲ建設スルヲ目的トシ海洋関係官衛長、団体長及学校長等ヲ以テ組織シ事務所ヲ海軍協会福岡県支部内ニ置ク
- 二、昭和十八年二月十八日本会ノ結成式ヲ挙ケ道場建設計画ヲ審議シ着手セルモ資材ノ関係ハ之カ進行ヲ洪滞セシムル状態ニ立至リタルニ付既定計画ヲ根本的ニ変更シ新設ヲ見合セ既設建物ヲ買取ノ上、訓練実施ノコトトシ目下新規計画ノ下ニ実現ヲ期シツツアリ

一、道場建設地

1、開場中ノモノ

(一)福岡県津屋崎仮設海洋道場

収容人員 三〇〇名

建 物 宗像郡津屋崎町

東郷公園養真閣及宮地 神社祭座殿無償使用

右道場ニ付テハ新設ノ計画ヲ以テ宗像郡吉武村ニ既設建物ヲ三二、

〇〇〇円ヲ以テ買取シアリ、之ヲ得次第、之ヲ解体、移転、改築ノ予定

ナリ

(二)福岡県椎田仮設海洋道場

収容人員 一五〇名

建 物 築城郡椎田町既設建物買取 約二〇〇坪

2、建設予定地

(1)福岡県芦屋海洋道場(道場名仮称) 遠賀郡芦屋町

収容人員 二〇〇名

建 物 遠賀郡芦屋町既設建物及土地ヲ買取交渉中ニ

シテ、近ク実行ニ移シ改築ノ上使用ノ予定

建坪 約二六〇坪

(2)福岡県福岡海洋道場(道場名仮称) 福岡地方

(3)福岡県有明海洋道場() 有明地方

(32枚目)

一、経費ハ海軍協会福岡県支部寄付金及一般並ニ特志寄付金ヲ以テ之ニ

充ツ

一、主要役員

志 部 長 福岡県次長

副支部長 福岡県内政部長

同 福岡地方海軍人事部長

同門司海運局船員部長

常務委員 福岡県兵事課長外三名

委 員 佐世保海軍人事部第三課長外三十七名

監 事 福岡県庶務課長外二名

顧 問 福岡県警察部長外二十二名

一、資産表別紙ノ通り

(33枚目)

資 産 表 (昭和二十年四月二十一日現在)
一、七千三百七拾九円六拾九銭也

内 訳

金額 円	種 別	保管委託先	備 考
七、三九九六九	特別当座預金	福岡県庁信用組合	
計 七、三九九六九			

右之通相違無之候也

昭和三十年四月二十一日

海洋道場建設委員会

福岡支部長

武 政 隆 一

同副支部長

栗 原 美 能 留

(34枚目)

科 目	歳 入 ノ 部				予算残高	備 考
	予 算 高	収 入 高				
		前 月 迄	本 月 分	合 計		
第一款 寄付金	451,000.00	35,000.00	2,080.00	37,080.00	413,920.00	
第一項 寄付金	451,000.00	35,000.00	2,080.00	37,080.00	413,920.00	
第一目 特別寄付金	150,000.00	20,000.00		20,000.00	130,000.00	
第二目 一般及特別寄付金	301,000.00	15,000.00	2,080.00	17,080.00	283,920.00	
第二款 雑収入	100.00	100.00	183.00	281.13		
第一項 雑入	100.00					
第一目 雑入	100.00					
第三款 繰越金	48,900.00	49,432.00		49,432.00		
第一項 前年度繰越金	48,900.00					
第一目 前年度繰越金	48,900.00					
歳 入 合 計	500,000.00	84,442.30	2,261.13	86,703.43	413,296.57	

(表内の数字は原資料のママ)

歳 入 金 高	86,703.43	
歳 出 金 高	79,175.42	
歳入歳出差引残高	7,528.01	
内		
20年度へ一部繰越高	3,000	
19年度 現在残高	4,528.01	県庁信用組合 預入

科 目	歳 出 の 部				予算残高	備 考
	予 算 高	支 出 高				
		前 月 迄	本 月 分	合 計		
第一款 海軍道場建設費	460,000.00	72,496.95		72,496.95	387,503.05	
第一項 福岡県海洋道場建設費	460,000.00	72,496.95		72,496.95	387,503.05	
第一目 中央海洋道場建設費	230,000.00	12,000.00		12,000.00	218,000.00	
第二目 芦屋海洋道場建設費	120,000.00					
第三目 椎田海洋道場建設費	110,000.00	60,469.95		60,469.95	49,530.05	
第二款 事務費	10,000.00	6,521.47	184.00	6,705.47	3,294.53	
第一項 事務費	10,000.00	6,521.47	184.00	6,705.47	3,294.53	
第一目 人件費	4,512.42	4,328.47	184.00	4,512.47	—	212.92 予備費引補充
第二目 会議費	500.00					
第三目 旅費	2,400.00	600.45		600.45	1,799.55	
第四目 通信費	300.00	95.70		95.70	204.30	
第五目 雑費	2,500.00	1,496.90		1,496.90	1,003.10	
第三款 予備費	30,000.00		(212.92)	(212.92)	29,787.08	212.92 人権費へ補充
第一項 予備費	30,000.00					
第一目 予備費	30,000.00					
歳 出 合 計	500,000.00	78,991.42	184.00	79,175.42	420,611.66	

本表ノ通 相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

海洋道場建設委員会福岡支部

安 西 小 彌 太 朱印 (安西)

海洋道場建設委員会 福岡支部長殿

(昭和二十年) 昭和二十年四月二十一日現在 海軍道場建設委員会県支部現計表

科 目	歳 入 の 部				予算残高	備 考
	予 算 高	歳 入 高				
		前 月 迄	本 月 分	合 計		
第一款 寄付金						
第一項 寄付金						
第一目 特別寄付金						
第二目 一般及び特志寄付金						
第二款 雑収入						
第一項 雑 入						
第一目 雑 入						
第三款 繰越金			3,000.00	3,000.00		19年度引一部 繰越
第一項 前年度繰越金			3,000.00			
第一目 前年度繰越金			3,000.00			
歳 入 合 計						

歳入金高	3,000.00	
歳出金高	148.32	
	184.00	
歳入歳出差引残高	2,851.68	
内		
19年度残高	4,528.01	県庁信用組合 預入

科 目	歳 出 の 部			予算残高	備 考
	予 算 高	支 出 高			
		前 月 迄	本 月 分		
第一款 海軍道場建設費					
第一項 福岡県海洋道場建設費					
第一目中央海洋道場建設費					
第二目芦屋海洋道場建設費					
第三目椎田海洋道場建設費					
第三(二カ)款 事務費			148.32		
第一項 事務費			148.32		
第一目 人件費			148.32		
第二目 会議費					
第三目 旅費					
第四目 通信費					
第五目 雑費					
第三款 予備費					
第一項 予備費					
第一目 予備費					
歳 出 合 計			148.32		

本表ノ通 相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

海洋道場建設委員会福岡支部

安 西 小 彌 太 朱印(安西)

海洋道場建設委員会 福岡支部長殿

4、恩賜
財団 軍人援護会福岡県支部

一、目 的

本支部ハ恩賜
財団軍人援護会ノ支部規定ニ依リ支部トシテ同会ノ活動ヲ支援補充スル為、福岡県内ニ於ケル戦没軍人ノ遺族、傷痍軍人及其ノ家族遺族、並ニ現役又ハ応召中ノ軍人及其ノ家族等ニ対スル各種ノ援護事業ヲ行ヒ、軍人トシテ後顧ノ憂ナカラシムルコトヲ以テ目的トス

二、沿 革

本支部ハ帝国軍人援護会福岡県支部ノ解散ト共ニ、昭和十三年十月一日財団
恩賜軍人援護会ノ設立ニ伴ヒ、其ノ支部トシテ設立、翌十四年八月二十六日厚生大臣ノ認可ヲ受ケ、財団法人ニ組織變更ヲ行ヒ、昭和十七年行政機構ノ改変ニ伴ヒ、支部事業ノ一部ヲ市及地方事務所ニ委任セリ

三、主要事業

- 1、生業援護ニ属スル事項
 - 生業資金貸付、厚生資金貸付、授産受職講習会、生業費給与及業務維持資金利子補給
- 2、医療保護ニ関スル事項
 - 医療保護、遺族家族健康診断、陸海軍病院再入院者保護、乳幼児保護、助産援護、虚弱児童保護
- 3、生活援護ニ関スル事項

4、育英二関スル事項
継続生活援護、一時生活援護、埋葬援護、

5、慰問移慰藉二関スル事項
學資補給国民学校初度入学者給与、給費生活指導遺児鍊成

軍隊慰問、現地慰問、陸海軍病院療養所慰問、傷痍軍人療養所
同補導所慰問、遺族家族傷病兵慰問、中元歳末見舞

(39枚目)

6、戦病死者ノ慰靈二関スル事項

7、身上相談二関スル事項

8、犒軍恤兵二関スル事項

9、銃後援思想ノ普及二関スル事項

軍人援護教育、顕彰、表彰、図書刊行、講演映写会

10、愛国寮ノ経営

(一)昭和十七年九月愛国婦人会県支部ヨリ受管シタル本寮ハ県内軍人
軍属ノ遺族家族中保護者ナキモノ、又ハ保護者ニ於テ適當ナル保
育教養ヲ行ヒ難キ遺児及子女(弟妹ヲ含ム)ヲ收容養護シ、心身

ノ鍊成ト健全ナル家庭訓練ヲ施シ、学校教育ト相俟ツテ独立自営、

家門ノ榮譽ヲ^(顯カ)揚セシムルモノトス

收容人員 当分五〇名以内

收容期間 通常一ヶ年

療児ノ年令 十四才以下トス

(二)靖国神社参拝前後ノ遺児ヲ收容(夏季二十日以内)鍊成ス

11、武蔵温泉保養所ノ経営

昭和十七年九月愛国婦人会県支部ヨリ受管シタル本保養所ハ現

役軍人軍属、傷痍軍人及其家族、戦歿軍人軍属ノ遺族、出征軍

人軍属ノ家族、帝国在郷軍人會員、銃後奉公会役職員、建設功
労者ノ利用ニ供シ特ニ傷痍軍人ノ療養利用ノタメ料金を低減ス

12、其ノ他本支部ノ目的達成上必要ナル事項

四、主要幹部

支部長 福岡県知事

副支部長 福岡県内政部長

福岡聯隊区司令官

福岡地方海軍人事部長

福岡県鉄工連合会副会長

(40枚目)

常務理事 福岡県兵事課長

顧問 一二名

理事 三四名

監事 二名

評議員 二四名

五、資産

別紙 財産表ノ通り

(41枚目前半)

財産表

昭和二十年四月二十日現在

一 普通財産

(一) 土地

計	田	鉱泉地	宅地	山林	地目	所在地	反別	取得価格	備考
	筑紫郡二日市町武蔵			粕屋郡和白村三苦		八〇四〇坪	四〇、二〇〇円		
	一、八八四坪	二坪	一、四三六坪三九				一一六、二八四円		元愛国婦人会福岡県支部ヨリ寄付
	一一、三六二坪三九						一五六、四八四円		

(二) 建物

計	愛国寮	武蔵温泉保養所	所在地	建坪	棟数	取得価格	備考
	粕屋郡和白村三苦	筑紫郡二日市町武蔵		四二七坪	八	三〇、四〇〇円	愛国婦人会福岡県支部ヨリ寄付
				七三九坪	一三	五七、〇七四円	
						二六、六七四円	

(41枚目後半)

(三) 有価証券

種類	額面金額	取得価格	備考
割引勸業銀行	五〇〇円	五〇〇円	十円券五十枚(寄附)
国庫債券	一五〇〇円	一五〇〇円	八号四分利公債壹百円券 一枚
計	二〇〇〇円	二五〇〇円	わ号支那事変 国庫債券壹千円券 一枚
			八号四分利国庫債券 五〇円 五枚
			二五〇円 四枚
			五〇円 一枚

(四) 金員

金額	保管状況

定期預金	指定金銭信託	特別当座預金	団体貯金	振替貯金国庫債券
一〇、〇〇〇、〇〇証書一通	八二、五〇〇、〇〇証書七通	一四五、二二五、三三証書七通	四九、八三三、四一証書四通	三、〇一六、九三証書一通 三五、〇〇〇、〇〇証書一通

有価証券並ニ金員合計 二九二、六〇九、五六

(42枚目)

二 基本財産

(一) 有価証券

種類	額面金額	取得価格	備考
国庫債券	五一、五〇〇円	五一、五〇〇円	ろ号 五〇円券 四枚
			そ号 百円券 二枚
			よ号 百円券 二枚
			つ号 百円券 二枚
			り号 百円券 二枚
			る号 百円券 二枚
			へ号 百円券 二枚
			甲号 五分利公債 五〇、〇〇〇円
			(三五円一枚 二五円一枚)

(二) 金員

金額	保管状況
四九八、五〇〇、〇〇	指定金銭信託 四九八、五〇〇、〇〇 証書十通

三 事業資金

(一) 金員

金額	七〇〇,〇〇〇	保管状況	指定金銭信託 七〇,〇〇〇,〇〇〇 証書三通
----	---------	------	------------------------

(42枚目後半)

合計 金 九拾壹萬貳千五百七拾四円五拾六銭

財産目録

昭和二十年四月二十日現在

金額	種別	預入区分	保管委任先	摘要
五〇〇〇〇	割増金付 割引勸業債券	保護預	日本勸業銀行福岡支店	買上価格 十円券 五十枚
一、〇〇〇〇〇	支那事変国庫債券	保護預	住友信託 株式会社福岡支店	一枚
五〇〇〇〇	四分利公債	信託	住友信託 株式会社福岡支店	一〇〇円券 一枚 五〇円券 一枚 二五円券 六枚
二〇、〇〇〇〇〇	預金	信託	安田信託 株式会社福岡支店	二口
二〇、〇〇〇〇〇	〃	〃	三和信託 株式会社福岡支店	
五〇〇〇〇	〃	〃	日本勸業銀行 福岡支店	
五〇七九	〃	特当	帝国銀行博多支店	
三、九〇五〇九	〃	〃	安田銀行福岡支店	
〇九	預金	特当	住友銀行福岡支店	
八四、二九	〃	〃	県庁信用金庫	

(43枚目)

金額	三、〇一六	種別	振替貯金口座	
	九三	〃	〃	
	八六	預金	帝国銀行福岡支店	
	八六	〃	課長殿ヨリ寄付金	
	〇〇	国庫債券		割引国債
	三五	〃		

以上一般会計

(統けて表あり)

金額	種別	預入区分	保管委任先	摘要
二、二九三	預金	団体預金	県庁信用組合	
〇一	〃	〃	〃	
四、四七六	〃	〃	〃	
四一、八〇二	〃	〃	〃	
一八、四六九	〃	特当	株式会社 福岡銀行	
〇四	〃	定期	〃	
一〇、〇〇〇	〃	〃	〃	

(43枚目後半)

金額	二〇、〇〇〇	種別	安田信託	
	〇〇	〃	株式会社福岡支店	
	〇〇	預金	住友信託	
	〇〇	〃	株式会社福岡支店	
	〇〇	信託	住友信託	
	〇〇	〃	株式会社福岡支店	

以上特別会計

合計 貳拾九萬貳千六百九円五拾六銭

(44枚目)

5. 福岡県授産協会

一. 目的

県内ニ於ケル軍人遺族家族傷痍軍人等ニ対スル授産、並ニ職業輔導施設ヲ以テ組織シ、其ノ連絡統制並事業経営ノ改善刷新ヲ図ルヲ目的トス

二. 沿革

昭和十七年五月十八日創立、現在県内ニ二十五ヶ所設置シ、軍需品ノ縫製ヲ主トシ、一部ニ於テ中等学校制服ノ縫製、下駄鼻緒ノ製造、並民間品ノ縫製ニ従事

而シテ繊維製品ノ配給ニ付テハ、人絹布及国民服地等ノ配給ヲ受ケ、之ヲ各施設ヘ配分シ、以テ教材又ハ製品トシテ活用セリ

三. 主要事業

- 1. 所属施設間ノ連絡統制
- 2. 原材料ノ取得並ニ配給
- 3. 受注並ニ販売斡旋

(44枚目後半)

- 4. 経営改善ニ関スル調査研究
- 5. 講演会研究会等ノ開催

四. 主要幹部

- 会長 一名 福岡県知事
- 副会長一名 福岡県内政部長
- 理事 福岡県兵事課長、国民動員課長外四名
- 監事二名 評議員二五名(各施設代表)

五. 会員

加入施設二五、外ニ未加入施設ニシテ竹加工二、藁加工七、木工品一、鼻緒芯繩加工一アリテ、近ク会員トシテ加入ノ見込

六. 資産並保管状況
銀行預金 二、六四四、〇三円
信用組合預金 二八、二六円

昭和二十年四月二十一日現在

(45枚目)

歳計現金引継書

一金、式千六百七拾式円式拾九銭

別紙現計表ノ通り

右相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

福岡県授産協会

副会長 栗原美能留

(46枚目)

福岡県授産協会収入支出現計表 昭和二十年四月二十一日現在

収入

(続けて表あり)

水田村授産所	一三八二六	一三八二六	一
木佐木村授産所	二六六三四	二六六三四	一
黒木町授産所	一四一三九	一四一三九	一
前年度繰越金		三、二五三三四	
七月分誤記是正 収入減		一四八九八	
計	六、六四二四五	九、七三八二七	八五四

(50枚目)

種別	支出ノ部	
	支出 円	備考
繊維品配給品代	九、七二〇〇一	
計	九、七二〇〇一	

収入支出差引残金 二八、二六円

歳計金ハ県庁信用組合へ預入

(51枚目)

- 一、目的
6. 財団法人 大日本傷痍軍人会福岡券支部

傷痍軍人タル会員が相互ニ親睦ヲ敦ウシ、修養陶冶ヲ励ミ、品位ノ向上ニ努メ、其名譽ヲ全ウシ、皇国ノ為終生奉公ノ誠ヲ致スコトヲ図ルヲ以テ目的トス

二、沿革

1. 本会ハ昭和十一年十二月設立セラレ本部ヲ東京ニ置ク

2. 本県支部ハ昭和十三年七月創立、事務所ヲ福岡県兵事課内ニ置ク
- 三、主要事業

1. 会員ノ精神修養ニ関スル事項
2. 国民精神ノ振作及風教ノ刷新ニ関スル事項
3. 戦公傷病死者及傷痍軍人死亡者ノ祭祀、並ニ其遺族ノ慰藉ニ関スル事項
4. 身上相談ニ関スル事項
5. 其他本会ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事項

(51枚目後半)

四、主ナル役員

支部長 福岡県知事
 支部部長 福岡県内政部長
 副支部長 福岡聯隊区司令官
 福岡地方海軍人事部長及会員中ヨリ一名
 福岡県兵事課長

五、会員及会員数

1. 会員、本県在住者ニシテ軍人少尉記章ヲ有スル者、及之ヲ授与セラル、資格ある者(但シ現役軍人ヲ除ク)
2. 会員数

創立当時(昭和十三年七月) 七一五名

現在(昭和二十年四月十五日) 七、五六八名

六、支部管内ノ下部組織

1. 支部八管内ヲ概ネ各都市ニ区画シテ分会ヲ設ク現在二十六分会

(52枚目)

2. 分会ハ概ネ町村（市ニアリテハ町内会又ハ連合町内会毎ニ）ノ

区域ニ班ヲ設ケアリ

七、傷痍軍人相談所

支部ニ傷痍軍人相談所ヲ各地方事務所ナイ及小倉・八幡・久留米・大牟田市役所内ニ全支所ヲ置キ會員ノ指導及身上万般ニ関スル相談業務ヲ取扱フ

八、資産及保管状況（昭和二十年四月二十一日現在）

金、一、七〇一円八〇銭 積立金 十七銀行定期預金
 金、一六、〇二二円四一銭 歳計現金

金七、三二六円八一銭 県庁信用組合預金

金八、七〇〇円九十銭 住友銀行預金

金 四円七十銭 十七銀行預金

右ノ通相違無之候也

昭和二十年四月二十一日

（52枚目後半）

大日本傷痍軍人会福岡県支部

副支部長 栗原美能留

（53枚目表）

昭和二十年四月二十一日		大日本傷痍軍人会福岡県支部		経費現計表		昭和十九年度	
科 目	予 算 額	入 之 部		入 額		予 算 残 額	
		前月迄収入	本月収入	計			
第一款財産ヨリ生ズル収入	五三〇〇円	五一五五円		五一五五円		四四四円	

科 目	予 算 額	予 算 補 充 二 言 語 予 算 増 減 額	前 月 迄 支 出	本 月 支 出	計	予 算 残 額
第二款 交付金	四〇四七〇〇〇		三八八八〇〇〇	一、五九〇〇〇	四〇四七〇〇〇	—
第三款 補助金	三六四六八〇〇		三六、三四七八〇	五九四〇〇	三六、九四二〇〇	四三七八〇
第四款 寄附金	一〇〇〇〇		一〇〇〇〇		一〇〇〇〇	—
第五款 雑収入	九一〇〇〇		七五〇〇〇		七五〇〇〇	一八五〇〇
第六款 繰越金	七、五二五〇〇		一〇、四六五〇二		一〇、四六五〇二	二、九四〇〇〇
合 計	八五、五二五〇〇		八六、五五九三七	二、一八四〇〇	八八、七五三三七	三、三三八三七

科 目	予 算 額	予 算 補 充 二 言 語 予 算 増 減 額	前 月 迄 支 出	本 月 支 出	計	予 算 残 額
第一款 会議費	四〇〇〇〇				四〇〇〇〇	—
第二款 事務費	八三三六〇〇		五八〇九七五	二六一〇〇	六〇七〇七五	二、二六五三五
第三款 事業費	二、二四二〇〇		一七三、八三〇二	六六〇〇〇	一七九、九九〇二	四四二一九
第四款 相談所費	五、一〇三〇〇		四、五一二一〇	四五九五九二	四六、二〇七〇〇	五、九九五九九
第五款 積立金	一五二〇〇		一五二五五		一五二五五	—
第六款 予備費	二、二二三〇〇				二、二二三〇〇	—
合 計	八五、五二五〇〇		六四、八五五四二	五、四七三九二	七〇、三三三三四	一五、一九六六六

（朱印）（和合）

一金壹万八千四百貳拾五円參銭 収入支出差引残金

内 訳

金 七千參百拾六円八拾貳銭 県庁信用組合預ケ

金 六千百參円五拾貳錢 住友銀行福岡支店預ケ
 金 四円七拾錢 十七銀行預ケ
 金 五千円 昭和二十年四月一日内端繰越
 右ノ通り候也
 昭和二十年四月二十一日
 大日本傷痍軍人会福岡県支部主事補 和合一郎(朱印(和合))

昭和二十年四月二十一日 大日本傷痍軍人会福岡県支部 経費現計表 昭和二十年

科 目	予 算 額	収 入		予 算 残 額
		前月迄収入	本月収入	
第一款財産ヨリ生ズル収入				
第二款 交付金				
第三款 補助金				
第四款 寄附金				
第五款 雑収入				
第六款 繰越金				
合 計		五,〇〇〇.〇〇	五,〇〇〇.〇〇	五,〇〇〇.〇〇

科 目	予 算 額	支 出		予 算 残 額
		前月迄支出	本月支出	
第一款会議費				
予算補充ニヨル 予算増減額				
計				

第二款事務費	二,四〇三.六二	二,四〇三.六二
第三款事業費		
第四款相談所費		
第五款積立金		
第六款予備費		
合 計	二,四〇三.六二	二,四〇三.六二

一金 貳千五百九拾七円參拾八錢 収入支出差引殘金

内 訳

金(空白) 県庁信用組合預ケ
 金 貳千五百九拾七円參拾八錢 住友銀行福岡支店預ケ

右ノ通り候也

昭和二十年四月二十一日

大日本傷痍軍人会福岡県支部主事補 和合一郎(朱印(和合))